

16世紀の沖縄語（音声・音韻）

— 口蓋化・破擦音化 —

多和田眞一郎

多和田（2002）・同（2001）を受けて、16世紀の沖縄語の音声・音韻について考察する。紙面の制約上、口蓋化・破擦音化のみを取り上げる。

分析の対象とした資料は、以下のとおりである。用例を示すときには略号を用いることとするので、それも合わせて示す。

1) {翻} 語音翻訳 (1501) …『海東諸国紀』付載のハングル資料／ 2) {玉} たまおとんのひもん (1501) …仮名資料／ 3) {館} 琉球館訳語 (16世紀前半成立か) …『華夷訳語』の一つとしての漢字資料／ 4) {石東} 石門之東之碑文 (国王頌徳碑) (1522) …仮名資料／ 5) {石西} 石門の西のひもん (真珠湊碑文) (1522) …仮名資料／ 6) {田1} 田名文書第1号 (1523) …仮名資料／ 7) {崇} 崇元寺之前東之碑うらの文 (1527) …仮名資料／ 8) {おも1} 『おもろさうし』巻一 (1531) …仮名資料 (1709年11月原本焼失。1710年7月再編)／ 9) {使1} 陳侃『使琉球録』中の「夷語」(1534) …漢字資料／ 10) {田2} 田名文書第2号 (1536) …仮名資料／ 11) {田3} 田名文書第3号 (1537) …仮名資料／ 12) 田4} 田名文書第4号 (1541) …仮名資料／ 13) {かた} かたはなの碑おもての文 (1543) …仮名資料／ 14) {田5} 田名文書第5号 (1545) …仮名資料／ 15) {添} 添継御門の南のひのもん (1546) …仮名資料／ 16) {田6} 田名文書第6号 (1551) …仮名資料／ 17) {やら} やらさもりくすくの碑のおもての文 (1554) …仮名資料／ 18) {田7} 田名文書第7号 (1560) …仮名資料／ 19) {使2} 郭汝霖『使琉球録』中の「夷語」(1561) …漢字資料／ 20) {田8} 田名文書第8号 (1562) …仮名資料／ 21) {田9} 田名文書第9号 (1563) …仮名資料／ 22) {字} 周鐘 等『音韻字海』中の「附録夷語音釈」「附夷字音釈」(1572頃) …漢字資料／ 23) {使3} 蕭崇業『使琉球録』中の「夷語」(1579) …漢字資料／ 24) {田10} 田名文書第10号 (1593) …仮名資料／ 25) {浦} 浦添城の前の碑おもての文 (1597) …仮名資料

漢字資料に関して、その音訳漢字の音価推定のために次の四種の辞書類を参考にする。

・『中原音韻』(1324)

二巻。元の周德清の編。主に華北・華中の言葉に基づいた韻引きの字書である。

・『西儒耳目資』(1626)

イエズス会の宣教師ニコラス・トリゴール (Nicolas Trigault金尼閣) の著したローマ字表記による韻引きの字書で、明末北方漢語の実態を写す資料とされる。

・『東国正韻』(1447-48)

朝鮮王朝世宗時代に申叔舟・崔恒・成三問等が王命により編纂した音韻書である。当

時の朝鮮漢字音を反映したものではないとして忌避される傾向にあるが、15世紀の朝鮮で、その漢字がどのような（中国）音を有すると考えられていたかを示すものであって（扱いには慎重であるべきであるが）、その観点からは有用だと考えられる。

・『訓蒙字会』（1527）

朝鮮王朝中宗の時代に崔世珍が著したもので、漢字3360字に発音と意味を書き、子供達に教えようとした漢字初歩の学習書である。

以下の四項目を取り上げる。

- (1) */ki/ (2) */-ika/ (3) */gi/ (4) /-iga/

それぞれの項目について資料ごとに見ていくが、用例が存在しない場合は、その資料には言及しないこととする（いちいち「用例ナシ」と断ることはしない）。（ハングルは転写字で示す。）

(1) */ki/

{翻} (1501)

Okit-cjoi (来て) Oki-mo (肝、心) Oki-ru<nu> (衣、着物) O'ju-ki (雪)
O'a-ki (秋) Okhi-ri<ni>-'u (昨日)

{玉} (1501)

Okinのあんし (金武の按司) Okikoゑ大きみ (聞得大君)

{館} (16C前半?)

主な用例は、以下のとおりである。

Okudai (つき、月) Okuyei (ゆき、雪) Okuegi (ゑき、駅) Okyokurok、交椅) Okunaru (まうきん、網巾) Okusok (おきやく? 御客?)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
き 及	kiə	kie	kkup	hup, kup	ki
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kər	khi
近	kiən	kin	kui'	kun	kin
急	kiəi	kie	kup	☆	ki
掲	k 'iəi, kie	k 'in	kkjoi	☆	khi
結	kie	kie, ki, hi	kjoi'	☆	ki
きお各	ko	ko	kak	骼 kak	kjo
角	kiau, kiue	kio	kak	kak	kjo

きや着	tʃio, tʃiau	c 'hu, chu	☆	thjak	tʃa
きよ喬	k'ieu	k'iao, kiao	kjow	橋 kjo	kjo
きん巾	kiən	kin	kum	kɔn	kin
斤	kiən	kin	kum	kum	kin

☆は、その資料に該当の字が見当たらないことを示す。以下、同じ。

{石西} (1522)

○きこゑ大きミ (聞得大君) ○ちへねんさしきわ (知念佐敷わ) ○たしきやくき
(だしきや釘)

{田1} (1523)

○せいやりとみかひき (勢遣り富が引き)

{おも1} (1531)

○きこゑて (聞こゑて) ○きも (肝、心)

{使1} (1534)

主な用例は、以下のとおりである。

○乞奴 (きのふ、昨日) ○阿及 (あき、秋) ○非近的 (ひきで、引き出)

○非進的 (ひきで、引き出)

「非近的」「非進的」をもとにして、多和田 (1997) でかなり詳しく論じたことがある (pp. 465-466)。ここで細説はしない。

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価	備考
き 及	kiə	kie	kkup	hup, kup	ki	
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kɔr	khi	
近	kiən	kin	kui'	kum	kin	「で」の前
其	k 'i	☆	☆	☆	khi	
急	kiəi	kie	kup	☆	ki	
氣	k 'iəi	☆	☆	☆	khɯ	
掲	k 'iəi, kie	k 'in	kkjoi	☆	khi	
基	ki	☆	☆	☆	ki	
進	tsiən	☆	☆	☆	tsi	
きお各	ko	ko	kak	骼 kak	kjo	
きや着	tʃio, tʃiau	c 'hu, chu	☆	thjak	tʃa	
きん巾	kiən	kin	kum	kɔn	kin	

{かた} (1543)

○きこゑ大きみ (聞得大君) ○ミちはきよらく (道は清らく)

{添} (1546)

○きよらさ (清らさ) ○きこゑ大きみ (聞得大君)

○御石かきつませて (御石垣積ませて)

{やら} (1554)

○きこゑ大きみ (聞得大君) ○おきなハ (沖縄)

{使2} (1561)

主な用例は、以下のとおりである。

○起模 (きも、肝、心) ○都急 (つき、月) ○由其 (ゆき、雪)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
き 基	ki	ki	☆	kui	ki
起	k 'i	ki	☆	☆	ki
吃	kiəi, k 'iəi	☆	☆	kər	ki
及	kiə	kie	kkup	huup, kup	ki
急	kiəi	kie	kup	☆	ki
掲	k 'iəi, kie	k 'in	kkjoi	☆	khi
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kər	khi
更	kəŋ	☆	☆	☆	ki
刻	k 'ə	☆	☆	kək	kɪ
其	k 'i	ki, hi?	☆	☆	ki
之	tʃi	☆	☆	☆	tsi
氣	k 'iəi	ki, khi	☆	skui	ki
豈	k 'ai	ki, kai	☆	☆	ki
きお各	ko	ko	kak	骼 kak	kjo
きん斤	kiən	kin	kum	kən	kin

{田8} (1562)

○ふさいとミかひき (ふさい富が引き)

{田9} (1563)

○せちあらとミかひき (勢治荒富が引き)

{字} (1572頃)

主な用例は、以下のとおりである。

○乙依 (きぬ、衣) ○起模 (きも、肝、心) ○遮那 (きぬ、衣)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
き 乙	iəi	☆	☆	☆	ki
基	ki	ki	☆	kui	ki
旗	k 'i	☆	☆	☆	ki
起	k 'i	ki	☆	☆	ki
吃	kiəi, k 'iəi	☆	☆	kər	ki
及	kiə	kie	kkup	huup, kup	ki
急	kiəi	kie	kup	☆	ki
掲	k 'iəi, kie	k 'in	kkjəi	☆	khi
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kər	khi
更	kəp	☆	☆	☆	ki
刻	k 'ə	☆	☆	kak	ki
遮	tʃie	☆	☆	☆	tsi
之	tʃi	☆	☆	☆	tsi
氣	k 'iəi	ki, khi	☆	skui	ki
麒	k 'i	☆	☆	☆	ki
きお各	ko	ko	kak	骼 kak	kjo
きん巾	kiən	kin	kum	kən	kin

{使3} (1579)

主な用例は、以下のとおりである。

○由旗 (ゆき、雪) ○起模 (きも、肝、心) ○匹舍蛮資之 (ひざまづき、跪)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
き 基	ki	ki	☆	kuui	ki
旗	k 'i	☆	☆	☆	ki
起	k 'i	ki	☆	☆	ki
吃	kiəi, k 'iəi	☆	☆	kər	ki
及	kiə	kie	kkwɸ	huɸ, kuɸ	ki
急	kiəi	kie	kuɸ	☆	ki
掲	k 'iəi, kie	k 'in	kkjəi	☆	khi
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kər	khi
更	kəɸ	☆	☆	☆	ki
刻	k 'ə	☆	☆	kʌk	kɪ
其	k 'i	ki, hi?	☆	☆	ki
之	tʃi	☆	☆	☆	tʃi
氣	k 'iəi	ki, khi	☆	skui	ki
豈	k 'ai	ki, kai	☆	☆	ki
きお各	ko	ko	kak	骼 kak	kjo
きん巾	kiɸn	kin	kum	kɸn	kiɸn

{浦} (1597)

○おきなハ (沖繩) ○はつまき (鉢巻) ○御ちよわひ (御来よわひ)

かな資料では一貫して「き」で表記されていたものが、ここに到って「ち」も現れるようになる。相当程度に破擦音化が進んでいたことの証左となろう。

(2) */-ika/

{翻} (1501)

○i-kja (いか、如何)

{館} (16C前半?)

<主な用例> ○集加撒 (ちかさ、近さ) ○亦加撒 (いかさ、幾等)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
か 加	kia	kia	ka'	茄 kja	kja, ka

{おも1} (1531)

<主な用例> ○いきやる (如何る) {いかある} ○いきやり (行きやり) {いきありて?}
この「きや」表記は、口蓋化の動かしがたい例となる。

{使1} (1534)

<主な用例> ○亦^{マア}如撒 (いかさ、幾等)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価	備考
か 加	kia	kia	ka'	茄 kja	kja, ka	「如」は「加」

{やら} (1554)

<主な用例> ○いきやてゝ (如何てて) ○しま世のてやちきやら (しま世のてや力)
○たしきやくき (だしきや釘)

「力」は現代語では[tɕikara]である。どこかで「先祖還り」が起こったことになる。破擦音化して[tɕiɕjara]となった後 [tɕikara]となったのか、[tɕikjara]から[tɕikara]にもどったのかなど、今後詳しい跡付けが必要となる。

{使2} (1561)

<主な用例> ○即加撒 (ちかさ、近さ)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
か 加	kia	kia	ka'	茄 kja	k(j)a

{字} (1572頃)

<主な用例> ○即加撒 (ちかさ、近さ) ○倭眉脚都 (おみかど、御帝)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
か 加	kia	kia	ka'	茄 kja	k(j)a
脚	kiau	kio	☆	kak	k(j)a

{使3} (1579)

<主な用例> ○即加撒(ちかさ、近さ) ○倭眉脚度(おみかど、御帝)
○麻佳里(まかり、碗)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。合わせて推定される音価も示すことにする。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
か 加	kia	kia	ka'	茄 kja	k(j)a
脚	kiau	kio	☆	kak	k(j)a
佳	kiai	kia, kiai, chui	☆	☆	k(j)a

{浦} (1597)

<主な用例> ○しかれは

(3) */gi/

{翻} (1501)

○'u-saŋ-ki(うさぎ、兎)

{玉} (1501)

○てんにあをき(天に仰ぎ)

{館} (16C前半?)

主な用例は、以下のとおりである。

○昂及(あふぎ、扇) ○烏撒及(うさぎ、兎) ○以立蒙乞(いりむぎ、炒り麦)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぎ 及	kiə	kie	kkup	hup, kup	gi
乞	k 'iəi	k 'i, k 'ie, nie	khui'	kər	gi

{石東} (1522)

○首里おきやかもいかなし(首里おぎやかもい加那志)

{石西} (1522)

○たしきやくき(だしきや釘)

{おも1} (1531)

○おぎもうちに(お肝内に)

{使1} (1534)

主な用例は、以下のとおりである。

○吾撒及 (うさぎ、兎) ○昂季 (あふぎ、扇)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぎ 及	kiə	kie	kkup	hup, kup	gi
巳	己 ki	☆	☆	☆	gi
季	ki	☆	☆	☆	gi
急	kiəi	kie	kup	☆	gi

{田2} (1536)

○まきり (間切)

{田3} (1537)

○よつきとみか (世継ぎ富が)

{かた} (1543)

○かきりなし (限りなし) ○御くらひをつきめしよわちへ (御位を継ぎめしよわちへ)

{田5} (1545)

○きま (儀間) ○まきり (間切)

{添} (1546)

○首里天つきの (首里天継ぎの)

{田6} (1551)

○きま (儀間) ○まきり (間切)

{やら} (1554)

○きまの大やくもい (儀間の大屋子思い)

{田7} (1560)

○まきり (間切)

{使2} (1561)

主な用例は、以下のとおりである。

○吾撒及 (うさぎ、兎) ○汪其 (あふぎ、扇) ○冷今 (どうぎぬ? 胴衣?)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぎ 妳	你 ni	你 ni	☆	☆	gi
基	ki	ki	☆	kui	gi
及	kiə	kie	kkup	hup, kup	gi
急	kiəi	kie	kup	☆	gi
其	k 'i	ki, hi?	☆	☆	gi

{字} (1572頃)

主な用例は、以下のとおりである。

○皿基 (むぎ、麦の) ○吾撒及 (うさぎ、兎) ○汪其 (あふぎ、扇)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぎ 基	ki	ki	☆	kui	gi
及	kiə	kie	kkup	hup, kup	gi
急	kiəi	kie	kup	☆	gi
其	k 'i	ki, hi?	☆	☆	gi

{使3} (1579)

主な用例は、以下のとおりである。

○皿基 (むぎ、麦の) ○吾撒及 (うさぎ、兎) ○汪其 (あふぎ、扇)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。合わせて推定される音価も示すことにする。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぎ 妳	你 ni	你 ni	☆	☆	gi
基	ki	ki	☆	kui	gi
及	kiə	kie	kkup	hup, kup	gi
急	kiəi	kie	kup	☆	gi
其	k 'i	ki, hi?	☆	☆	gi

{田10} (1593)

○きま (儀間)

{浦} (1597)

○きほくひり (儀保小坂) ○うらおそひまきり (浦襲ひ間切)

(4) */-iga/

{翻} (1501)

○ri<ni>-kja-sa (にがさ、苦さ)

{館} (16C前半?)

○亦嗑喇 (みがはら、井河原) ○孔加尼 (こがね、黄金) ○个嗑尼 (こがね、黄金)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
が 加	kia	kia	ka'	茄 kja	ga, gja?
嗑	ko	ho	嗑 har	榼 hap	ga

{石東} (1522)

○首里おきやかもいかなし (首里おぎやかもい加那志)

{石西} (1522)

○くにかみ (国頭)

{田1} (1523)

○せいやりとみかひきの (勢遣り富が引き)

{おも1} (1531)

○てにぎや下 (天ぎや下) ○てにがした (天が下)

明らかな口蓋化表記「ぎや」とそうでない表記とが共存状態にあることを示していよう。

{使1} (1534)

○依嗑喇 (みがはら、井河原)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
が 加	kia	kia	ka'	茄 kja	ga, gja
嗑	ko	ho	嗑 har	榼 hap	ga
がは嗑	ko	ho	嗑 har	榼 hap	ga

{田3} (1537)

○よつきとみか (世継ぎ富が) ○大やくもいか (大屋子思いが)

{田4} (1541)

○せちあらとミか (勢治荒富が)

{かた} (1543)

○あんしおそひかなし (按司襲ひ加那志) ○ひかしにあたりて (東に当たりて)

{田5} (1545)

○大やくもいか (大屋子思いが)

{添} (1546)

○あんしおそひかなし (按司襲ひ加那志)

{田6} (1551)

○大やくもいか (大屋子思いが)

{やら} (1554)

○天きや下ハ ○天か下のあちけす (天が下の按司下司) ○あんしおそひかなし (按司襲ひ加那志) ○ちかためのおよハひ (地固めの御祝ひ)

{田7} (1560)

○大やくこいか (大屋子思いが)

{田8} (1562)

○大やくもいか (大屋子思いが) ○ふさいとミか (ふさい富が)

{田9} (1563)

○大やくもいか (大屋子思いが)

{使3} (1579)

○一更加烏牙 (ゑきがおや、男親)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価を推定するために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
が 嗑	ko	ho	嗑 har	榼 hap	ga
啗	kiai	☆	☆	☆	g(j)a
加	kia	kia	ka'	茄 kja	g(j)a

{田10} (1593)

○大やくもいか (大屋子思いが)

{浦} (1597)

○あんしおそひかなし天の (按司加那志) ○くにかミ (国頭)

紙面の制約上、簡潔を旨とした結果、説明を極力省略せざるをえなかった。それを少しでも補う意味で資料に語らせる手法を取った。

以上の結果を、推定される音価の一覧表にして示すと次のようになる。

口蓋化と破擦音化のまとめ（推定される音価）

	翻 1501	玉 1501	館16C 前半	石東 1522	石西 1522	田1 1523	崇 1527	おも1 1531	使1 1534	田2 1536	田3 1537	田4 1541
ki	ki, khi	ki	ki, khi	*	ki	ki	*	ki	ki, khi, khi	*	*	*
ika	ikja	*	ikja	*	*	*	*	ikja	ikja	*	*	*
gi	gi	gi	gi	gi	gi	*	*	gi	gi	gi	gi	*
iga	igja	*	g(j)a	igja	igja	igja	*	igja iga	g(j)a	*	igja	igja

	かた 1543	田5 1545	添 1546	田6 1551	やら 1554	田7 1560	使2 1561	田8 1562	田9 1563	字 1572頃	使3 1579	田10 1593	浦 1597
ki	ki	*	ki	*	ki	*	ki, khi	ki	ki	ki, tsi	ki, tsi	*	ki, tsi
ika	*	*	*	*	ikja	*	ik(j)a	*	*	ikja	ikja	*	ikja
gi	gi	gi	gi	gi	gi	gi	gi	*	*	gi	gi	gi	gi
iga	ig(j)a	ig(j)a	ig(j)a	ig(j)a	ig(j)a	ig(j)a	*	ig(j)a	ig(j)a	*	igja	ig(j)a	ig(j)a

*は、用例ナシを示す。

参考文献

- 多和田眞一郎（2002）「15世紀の沖縄語（音声・音韻）——口蓋化・破擦音化／有声子音の前の鼻音——」『広島大学留学生センター紀要』第12号
- （2001）「沖縄語の音声・音韻の変化過程」『広島大学留学生センター紀要』第11号
- （1998）『沖縄語漢字資料の研究』 溪水社
- （1997）『外国資料を中心とする沖縄語の音声・音韻に関する歴史的研究』 武蔵野書院